

式辞

双葉ヶ丘に向かうゆるやかな坂道、瓦屋根の校舎、無邪気に駆け回る幼稚園の子どもたちの声。

季節は巡り、穏やかな春の日差しに包まれ、27名の卒業生の旅立ちの日になりました。

本日は、綾部市長「山崎善也」様をはじめ、ご来賓の皆様にご臨席を賜り、ここに令和四年度第七十六回卒業証書授与式を挙行できますことを嬉しく思います。日頃よりご支援いただき、また卒業いたします27名の前途を祝し、温かい励ましをいただきますことに對しまして、高いところからではあります、厚くお礼申しあげます。

2020年から今日までを振り返ると、地球規模で激動の時代でありました。感染症の世界的拡大、東京オリンピック・パラリンピック開催、そして、人権の世紀と言われるこの「L」世紀で、今もなお続いている他国での戦争。私たちの生活は、世界とつながっており、世界に目を向ける必要があることを実感するそんな毎日です。

学校生活では全国一斉の臨時休校を経験し、一人一台のタブレット端末導入など授業風景も大きく変わりました。

そんな激動の時代、多くの制約の中でぐっと我慢をし、仲間と共に大きく成長した「L」名の卒業生のみ

みなさん、本当に卒業おめでとう！ 門出を祝福するにあたって、みなさんが入学した年、令和2年度の入学式式辞をそつと開いてみました。

そこには、「君の志」未来を見据えて、夢や希望、成し遂げたいことを持ちなさいと書かれていました。「君の志」今、みなさんは自分なりの志を立てて卒業しようとしています。

先日、宇宙飛行士候補試験に2名が合格したというニュースが発表されました。その1名の方は小さい頃から宇宙が大好きで、高校の卒業アルバムに「仕事場は火星」という志を書いていたそうです。みなさんの3年後の高等学校卒業の日には、これに負けないような志を立て、それぞれの道に羽ばたいていくことを想像すると、今からとても楽しみます。

さて、「君の志」とは、パティシエになるとか、大きな橋を建設するといった具体的な目標のことではあるのですが、別のとらえ方もできます。それは、「君はどう生きるのか」ということです。

みなさんは2年生の時に職場体験学習を経験できず、直接の体験としての「働く」ということを知らずに卒業となります。義務教育の目的は自立した社会人になるための基礎を固めることにあり、次の高校生活を終えると法律上の大人として、それぞれの道へと進んで行きます。

ここで、自立した社会人となるために、「働く」ということについて話します。

有名なアツプル創業者のステイブジョブズ氏は、自分が素晴らしいと信じる仕事をやること、好きなことを仕事にすることと言っています。一方、元大阪大学総長の鷺田清一さんは、「会社に入れば初めは誰でもできる基礎的な仕事しかさせてもらえない。誰でもできる仕事を工夫してやるうちに、自分流のやり方を見つけ認められるようになる。」と書いておられます。この2つは、正反対の考え方に思えるかもしれませんが、実は一段上の所に共通点があり、それをジョブズ氏は次のように言っています。「未来に先回りして点と点を繋げることにはできない。自分たちにできるのは過去を振り返って繋ぐことだけだ。だから、未来にある成功した自分という点と現在の自分という点がいつか繋がると信じて君の志を達成するような自分流の生き方をすることが大切なんだ。」と。きつとこれが「なりたい自分になる」ということではないでしょうか。

八田中学校の伝統は演劇だと言われますが、演劇を通して引き継いできた本当のことは、「考え抜く姿勢」「新しいことに挑戦する勇氣」「一人ではできないことへの協力」です。みなさんはこの3つの力の基礎を学んできました。この3つの力をもとに「どう生きるか」という「君の志」を高校生活でじっくりと育ててください。

最後になりましたが保護者の皆様一言お祝いを申しあげます。「本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。」今日、こうして卒業の喜びの日を迎えられましたことは感慨もひとしおかとお拝察申しあげます。この三年間、多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに、職員一同厚くお礼申し上げます。

また、地域の皆様におかれましては、地域と共にある学校を目指してお力添えをいただきましたこと感謝申しあげます。

結びにあたり、ご来賓の皆様、保護者の皆様、そして先日の「三年生を送る会」で本校の伝統を引き継ぐ決意を表した在校生の皆さんと共に、卒業生の輝かしい未来に夢を託し、式辞といたします。物語はここから始まる！

令和五年三月十五日

綾部市立八田中学校

校長 小林 孝伊